

# 2002年部会報告書の「埋立地ガスの 評価」の改訂方針について

埋立処理処分研究部会

# 2002年部会報告書の改訂方針

「廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法」  
(2002年3月)の21年ぶりの改訂

- 新たな法制度への対応
  - 最終処分場跡地形質変更 (2004)
  - 水質環境基準（カドミウムや1,4-ジオキサン）など
- 用語の定義と統一
  - 「埋立地ガス」と「埋立ガス」など
- **第3章「ガス発生非増加基準」の刷新**
  - 判定基準と測定法など

# ガス発生・非増加基準に関する議論

## • 測定法

- **代表性**の確保：測点数・測定回数・測定時期
- **流量**の測定法：液膜流量計 vs 熱線風速計
- 多様な**ガス抜き管**（**縦型集排水管**）**形状**への対応
- **モニタリング管**の設置方法：設置数と費用
- **安定型処分場**への対応：地表面フラックスの適用

## • 判定基準

- （覆土下）**濃度基準**の妥当性
- **発生量基準**の設定と必要性
- **非増加基準**の評価方法
- 跡地**形質変更**制度への対応

# ガス発生・非増加基準に関する議論

- 改訂のポイント
  - **埋立地ガス**（メタンガスと二酸化炭素ガスの合計）
  - ガスの発生はガス**放出量**で評価する
  - 判定基準の根拠は生活環境保全上の支障の防止
  - 判定基準はガス放出量が測定下限値以下、またはガス発生量の減少が有意水準5%（片側）で有意
  - メタン5%×流速定量下限値0.01m/s（×ガス抜き管面積）から**埋立地ガス（CH<sub>4</sub>+CO<sub>2</sub>）の測定下限値1L/分**を設定（通気装置）
  - ガス濃度測定はGC法／流速測定は熱線風速計
  - 通気装置がない場合は地表面ガスフラックスで判定

# 本日のメニュー

司会 & 質疑コーディネーター：室蘭工業大学 吉田英樹

## 1. 2002年部会報告書の「埋立地ガスの評価」の改訂方針について

部会長 国立環境研究所 山田正人

## 2. 改訂案の具体的な内容について

埼玉県環境科学国際センター 長森 正尚

## 3. 改訂作業のWGの今後の活動について